

プードル

Poodle

FCI スタンダード No. : 172

■原産地

フランス

■用途

コンパニオン・ドッグ

■FCI分類

グループ9 コンパニオン・ドッグ&トイ・ドッグ

セクション2 プードル

ワーキング・トライアル非対象犬種

■沿革

フランス語の「caniche (プードル)」の語源は、牝のアヒルを意味するフランス語の「cane」に由来している。他の国では、この犬の犬種名は水遊びと関連がある。この犬は元来鳥猟に使用されていた。この犬はバルベの子孫であり、その特徴を多く残している。1743年にはこの犬は「caniche」と呼ばれていた。「caniche」とは牝の五色鳥を意味するフランス語である。その後バルベと Caniche (プードル) は徐々に分離していった。ブリーダー達は元来の単色の個体を入手しようと努力した。プードルは、人なつこく陽気で忠実な性格から、また4つのサイズ及び様々な毛色から各人が好みに合ったものを選ぶことができることから、コンパニオン・ドッグとして非常に人気を博すようになった。

■一般外貌

中位のプロポーションで、特徴的な縮れた被毛は巻き毛もしくは縄状毛である。外貌は知的で、常に用心深く且つ活動的で、体躯構成は調和が取れており、優雅で誇らしげな印象を与える。

■重要な比率

マズルの長さはスカルの長さの約 10 分の 9 である。

体長 (肩甲骨から坐骨) は体高よりも僅かに長い。

体高と尻の高さはほぼ等しい。

肘の高さは体高の 9 分の 5 である。

■習性／性格

忠誠心、学習能力及び訓練性能で知られており、そのためコンパニオン・ドッグとして非常に適している。

■頭部 (ヘッド)

際立っており、直線的でボディとの均整がとれている。頭部はチズリングが明瞭でなければならず、重々しいことも過度に細いこともない。

□頭蓋部 (クラニアル・リージョン)

スカル

スカルの幅は頭部の長さの半分よりも短い。スカル全体を上望するとオーバルで、側望すると僅かに凸状になっている。オクシパットから眉弓を通る線と鼻梁の延

長線は前方に向けて僅かに広がっていく。眉弓のアーチは適度に隆起しており長い被毛に覆われている。額溝は両目の間では幅広く、オクシパットに向かって狭くなっていき、その様子は非常に明瞭である（ミニチュアにおいてはそれほど明瞭でないこともある）。

ストップ

ごく僅かにしか見られないが、絶対になくてはならない。

□顔部（フェイシャル・リージョン）

鼻（ノーズ）

発達しており、側面は垂直である。鼻孔は大きい。毛色がブラック、ホワイト及びグレーの犬の鼻はブラックで、毛色がブラウンの犬は鼻もブラウンである。毛色がフォーン（アプリコット／レッド）の犬ではフォーン・カラーの明度により鼻はブラックもしくはブラウンとなる。明るいフォーンの犬の鼻はできるだけ暗色であるべきである。

マズル

側望時の上面は完全に真っ直ぐであり、マズルの長さはスカルの約 10 分の 9 である。下顎枝はほぼ平行である。マズルは力強い。側望時の下面は下顎によって形成されるものであり、上唇の端によって形成されるものではない。

唇（リップス）

適度に発達しており、どちらかというとき引き締まり、厚さは中位で、上唇は下唇の上に覆いかぶさることなく接している。毛色がブラック、ホワイト及びグレーの犬の唇はブラックで、ブラウンの犬では唇もブラウンである。オレンジ・フォーン（アプリコット）及びレッド・フォーンの犬では唇は程度の差はあるがダーク・ブラウンもしくはブラックである。口角は目立ってはならない。

顎／歯（ジョーズ／ティース）

完全なシザーズ・バイト。歯は丈夫である。

頬（チークス）

張り出しておらず、頬骨に沿って形作られている。眼窩下の輪郭はすっきりしており、ごく僅かに張っている。頬骨弓はごく僅かに隆起している。

目（アイズ）

鋭い表情で、ストップと同じ高さに位置し、僅かに傾斜している。アーモンド形である。色はブラックあるいはダーク・ブラウンである。毛色がブラウンの犬ではダーク・アンバーの場合もある。ブラック、ホワイト及びグレーの犬の目縁はブラックで、ブラウンの犬の目縁はブラウンである。明るいフォーンの犬の目縁はできるだけ暗色であるべきである。

耳（イヤーズ）

かなり長く、頬に沿って垂れており、鼻先から目尻の下を通る線の延長線上に付く。平らで、付け根から徐々に幅広になり、先端は丸みを帯びており、非常に長いウェービーな被毛で覆われている。耳朶は前方に引っ張ると口角まで届くべきであり、口角を越えているのが理想的である。

■頸（ネック）

力強く、うなじは僅かにアーチしており、中庸な長さで均整が取れている。頭部は高く誇らしげに掲げる。デューラップはなく、断面はオーバルである。長さは頭部の長さよりも僅かに短い。

■ボディ

均整が取れている。体長は体高よりも僅かに長い。

□トップライン

調和が取れており、ぴんと張っている。

□キ甲（ウィザーズ）

適度に発達している。キ甲までの高さは尻の最高点から地面までの高さとはほぼ等しい。

□背（バック）

短い。

□腰（ロイン）

堅固で筋肉質である。

□尻（クループ）

丸みを帯びているが、斜尻ではない。

□胸（チェスト）

肘まで届く。胸幅は胸深の3分の2と等しい。前胸の胸骨端は僅かに突出しており、かなり高く位置する。スタンダード・ブードルにおいては、肩の後ろで測った胸囲は体高よりも10cm長い。断面はオーバルで、背側は幅広い。

□アンダーライン及び腹（ベリー）

巻き上がっているが、過度ではない。

■尾（テイル）

腰の高さにかかなり高く付く（トップラインと比較して「9時10分」の方向に掲げているのが理想的である）。

■四肢（リムズ）

□前 軀（フォアクォーターズ）

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

完全に真っ直ぐで平行しており、筋肉に富み、骨は丈夫である。肘から地面までの高さは体高の半分よりも僅かに長い。

肩（ショルダー）

傾斜しており、筋肉質である。肩甲骨と上腕骨の角度は約110度である。

上腕（アッパー・アーム）

上腕骨の長さは肩甲骨の長さに一致する。

手根（手首）（カーパス／リスト）

前腕の前面の延長線上に位置する。

中手（メタカーパス／パスターン）

頑丈で側望するとほぼ垂直である。

前足（フォアフィート）

かなり小さく、堅固で、短いオーバルである。指はよくアーチし、緊握している。パッドは堅く厚みがある。毛色がブラック及びグレーの犬の爪はブラックである。ブラウンの犬の爪はブラウンである。ホワイトの犬の爪は「ツノ」の色からブラックまでのどの色調でもよい。フォーンの犬の爪はブラウンあるいはブラックであり、毛色に準じ、できるだけ暗色である。

□後 軀

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

後望すると後肢は平行である。筋肉は発達しており非常に顕著である。

大腿（サイ）

十分に筋肉が付いており、頑丈である。寛骨と大腿の角度は明瞭である。

膝（スタイフル／ニー）

大腿と脛骨の角度は明瞭である。

飛節（ホック・ジョイント）

比較的角度がある（脛骨と足根骨の関節は十分な角度がある）。

中足（メタターサス／リア・パスターン）

かなり短く直立している。誕生時に後肢にデュークローがあるべきではない。

後足（ハインド・フィート）

かなり小さく、堅固で、短いオーバルである。趾はよくアーチし、緊握している。パッドは堅く厚みがある。毛色がブラック及びグレーの犬の爪はブラックである。ブラウンの犬の爪はブラウンである。ホワイトの犬の爪は「ツノ」の色からブラックまでのどの色調でもよい。フォーンの犬の爪はブラウンあるいはブラックである。

■歩 様（ゲイト／ムーブメント）

軽快で弾むようである。

■皮 膚（スキン）

しなやかであるが、弛みはなく、色素が沈着している。毛色がブラック、ブラウン、グレー及びフォーンの犬はその毛色に準じた色素が沈着していなければならない。ホワイトの犬ではシルバーの皮膚が求められる。

■被 毛（コート）

□毛（ヘアー）

カーリー・コート

細くウーリーな毛が豊富に生えている。非常に縮れており、弾力があり、手で押すと押し返される。被毛は厚く、飾り毛が豊富で、同じ長さで均一なカールが形成されている。

コーデッド・コート

細くウーリーな毛が豊富に生えている。被毛は密生しており、特徴的な縄状毛を形成し、その長さは少なくとも 20cm はあるべきである。

□毛色（カラー）

単色である。ブラック、ホワイト、ブラウン、グレー、フォーン。

ブラウンは深みがあり、かなりダークで、均一で、暖かみがあるべきである。ベージュ及びそこから派生した明るい色は認められない。グレーは均一な深い色でなければならず、ブラックやホワイトに寄った色になってはならない。フォーンは均一な色でなければならず、パール・フォーンからレッド・フォーン、或いはオレンジ・フォーン（アプリコット）までである。眼瞼、鼻、唇、歯茎、口蓋、陰囊及びパッドにはしっかりと色素が沈着している。明るいフォーンの犬については、全ての色素沈着はできるだけ暗色であるべきである。

■サイズ

全てのバラエティーに於いて性相が明確に視認できなければならない。

スタンダード・プードル

45cm 超、60cm 以下だが、+2cm までは許容される。

スタンダード・プードルはミディアム・プードルをそのまま拡大・伸展したもので、同一の特徴を有していなければならない。

ミディアム・プードル

35cm 超、45cm 以下。

ミニチュア・プードル

28cm 超、35cm 以下。ミニチュア・プードルはミディアム・プードルを縮小した外貌でなければならない、可能な限りミディアム・プードルと同じプロポーションを保ち、ドワーフィズム（矮小発育症）のいかなる兆候も呈してはならない。

トイ・プードル

24cm 超（-1cm までは許容）、28cm 以下（理想体高：25cm）。

トイ・プードルはミニチュア・プードルの外貌と類似し、全体的なプロポーションも同じであり、犬種標準の全ての点と合致する。

ドワーフィズム（矮小発育症）の傾向が見られるものは全て失格とするが、オクシパットの隆起に限ってはそれほど目立たなくてもよい。

■欠点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度に比例するものとする。

■重大欠点

- ・眼：大きすぎるもの、丸すぎるもの、または深く付いていたり、色が十分にダークでないもの。
- ・耳：短すぎるもの（口角に届かないもの）。
- ・スニッピー、または尖ったマズル。
- ・凸状のマズル。
- ・ローチ・バックまたはスウェイ・バック。
- ・尾付きが低すぎるもの。
- ・斜尻。
- ・後肢の角度が真っ直ぐすぎるものや、角度があり過ぎるもの。
- ・流れるような歩様や伸長した歩様のもの。
- ・被毛がまばらなものや、柔らかいもの、ワイヤー状のもの。
- ・毛色をはっきりとしていないものや、均一でないもの。
- ・部分的に色素欠乏している鼻。
- ・2本のPM2の欠歯。

■失格

- ・攻撃的または過度のシャイ。
- ・肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・タイプが欠如しているもの、特に頭部のタイプが欠如しているもの。明らかに他の犬種が混じっていると思われるもの。
- ・スタンダード・プードルで体高が 62cm を超えるもの。トイ・プードルで体高が 23cm 未満のもの。
- ・無尾のものや、生まれつき尾が短いもの。
- ・後肢にデュークローが生えているものや、デュークローの痕跡があるもの。
- ・ドワーフィズム（矮小発育症）の兆候が見られるもの。つまり、丸みを帯びたスカル、オクシパットの突出の欠如、非常に顕著なストップ、出目、ターン・アッ

- プした短すぎるマズル。
- ・額溝がほとんどないもの。
 - ・トイ・プードルで骨量が非常に軽いもの。
 - ・完全にカールした尾。
 - ・単色でない被毛。
 - ・毛色がホワイトの犬を除き、ボディまたは足にある全てのホワイトの斑。
 - ・完全に色素欠乏している鼻。
 - ・アンダーショット、またはオーバーショット。
 - ・口内を傷つけてしまう位置に生えている歯（例：口蓋に触れる悪位置の犬歯）。
 - ・切歯1本もしくは犬歯1本、裂肉歯1本の欠歯。
 - ・PM3もしくはPM4の1本の欠歯。
 - ・3本以上のPMの欠歯（PM1は除く）。

注：・牡犬は明らかに正常な2つの睾丸が陰嚢内に完全に下降していること。
・機能的かつ臨床的に健全であり、犬種のタイプを有しているもののみが繁殖に使用されるべきである。

■スタンダードへの追加

ショーに於けるプードルの審査はグルーミング・コンテストの審査ではない。そのため、過度なグルーミングは推奨されない。

□公認されるショー・クリップ

「ライオン・クリップ」

カーリーであってもコーデッドであっても後軀は肋までクリップする。

その他、下脛の縁からマズル及び頬もクリップし、前肢及び後肢はカフスあるいはブレスレット及び任意で施すことのできる後軀のモチーフ以外はクリップする。尾は先端の球形もしくは楕円形のポンポン以外はクリッピングする。マスタッシュ（触毛）は全ての犬に要求される。前肢に「トラウザー」と呼ばれる被毛を残すことは許容される。

「モダン・クリップ」

下記の基準を満たしている場合に限り、四肢に被毛を残すことが認められる。

1. クリップする部位：

- a) 爪からデュークローの先端までの前肢の下部、及び後肢の下部の同じ高さまで。指趾に限りクリッパーの使用が認められる。
- b) 頭部及び尾はライオン・クリップのルールに従うものとする。

下記事項はこのクリップにのみ例外的に認められる：

- ・下顎の下の1cmを越えない長さの被毛。この被毛の先端のラインは下顎と平行になるようにカットすること。「ゴート・ビヤード（山羊の髭）」と呼ばれる被毛（髭）は許容されない。
- ・尾のポンポンを押しつぶしたような形にすること。

2. 短くする部位：

背線にショット・シルク効果（光沢感）を与えるために、ボディ全体の被毛は少なくとも1cm以上は残し、肋及び四肢の上部にかけて徐々に長くしていく。

3. 整える部位：

- a) 頭部では適度な高さのトップノットを維持し、頸の後からキ甲にかけて滑らかに下降する。また、フロント部分は、前胸から僅かに傾斜したラインで下降し、それに続いて、足先の剃った部分まで滑らかに下降する。耳の付け根から耳の長さの最大3分の1までの被毛は、毛並みに沿ってハサミでカットするかクリップしてもよい。耳の下部は被毛に覆われたまま残すが、被毛の長さは耳の下方に向かって徐々に長くし、先端の飾り毛は真っ直ぐに切りそろえる。
- b) 四肢の「トラウザー」は足先の剃った部分とは顕著な対照をなす。被毛の長さは下から上に向かい徐々に長くし、肩及び大腿では被毛を真っ直ぐ伸ばした状態で4cmから7cmの長さにし、「ふわふわ」感を出さずに犬のサイズに見合ったものにする。後肢の「トラウザー」はプードルの典型的なアンギュレーションが見えるようにしなければならない。

これらの基準に準拠していない他の全てのファンシー・クリップは禁じられる。グルーミングによって作られた標準的なアウトラインがどのようなものであろうと、ショーでの席次には何ら影響を与えることはなく、同一のクラスで出陳された犬は同じように審査され、席次を与えられなければならない。

「イングリッシュ・クリップ」

「ライオン・クリップ」に後躯のモチーフ、つまりブレスレット及びカフスを加える。このクリップではマスタッシュ（触毛）は任意である。後躯の被毛に境界がないものも許容される。トップノットは任意である（トップノットの位置を保つためにスプレーやその他の物を使用することは禁じられている）。

「パピー・クリップ」

モダン・クリップで述べられている幾つかの剃られた部分を引き継いでいる。頭部：妥当な高さのトップノット。前躯の被毛は前胸からトップノットにかけて卵型のような球状を形成している。前躯の「トラウザー」は維持され、典型的なプードルの角度を強調する。

尾のポンポンはオーバルまたは楕円形である。丸みを帯びた形で細長くクリップされる。

「スカンジナビアン・クリップまたはテリア・クリップ」

このクリップはモダン・クリップに似ているが、違いは耳及び尾が剃られていても良いという点である。